

## まえがき

徳島大学総合科学部人間社会学科・社会学研究室  
助教授 榎田美雄 (kashida.yoshio@nifty.ne.jp)  
WWW サイト (本冊子の PDF ファイル公開予定)  
<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/>

この報告書の前半は、地域調査実習という学部の授業に関連して、『鍼灸治療場面』および『鍼灸教育場面』に関連してなされた1年間の相互行為分析をまとめたものである。後半は、科目名：地域社会論Ⅲ、授業題目：社会組織論、という大学院の授業において提出された自由レポートをまとめたものである。総タイトル『鍼灸のエスノメソドロロジー』は、慣例から前半の内容に基づいて付けられたものであって、副題（『地域調査実習報告書&大学院地域社会論Ⅲ（社会組織論）レポート集』）の方が正確に内容を表すものになっている。学生・院生の労力奉仕によって150部作成した。以下、簡単に各部分の内容紹介と本報告書作成に至る経緯の説明を行い、さらに、謝辞および、利用上の注意等を記していくこととしたい。

まず、内容紹介と経緯の説明等から。

本報告書の第1部は、「まえがき」と「トランスクリプト記号一覧」である。「トランスクリプト記号一覧」は、第1部第2章のインタビュー記録および、第2部第2章の中恵論文で用いられている記号の解説である。ただし、中恵論文掲載のトランスクリプトには、より複雑な記号体系が用いられており、その部分については中恵論文の末尾に解説がなされているので、ここでは解説が割愛されている。

第2部には、「鍼灸のエスノメソドロロジー」のために、という地域調査実習関係者3名による研究経過報告と、「東洋医学としての鍼灸」というタイトルのインタビュー記録が掲載されている。今年は2007年1月初頭の研究の取りまとめ段階で、榎田の病気休養（胆嚢炎・胆管炎）等があり、実習の成果を論文の形にまでまとめあげることができなかった。2007年度の学部演習のテーマとして、続けて「鍼灸のエスノメソドロロジー」を掲げ続けることで、この遅れを取り返していきたい。

第3部には、榎田が隔年で開講している大学院の授業「地域社会論Ⅲ（社会組織論）」のレポートをまとめて掲載した。藤代論文は、阿波踊りの有名連の幹部にインタビューした結果をまとめたものであり、民俗学研究としても興味深い。中恵論文は生活保護の現場担当者にインタビューした結果を自己省察を交えながら再考察したものであり、近年のインタビュー研究の趨勢を反映したものである。トランスクリプトから漏れ出てくる現場の息づかいを味わって欲しい。

これらの優秀なレポートが出されてきた背景には、今年の授業の進め方が影響していると考えられるので、以下そのことに少し触れておきたい。今年の大学院の授業では、大テーマを“学位論文を読む！”と掲げ、その方針のもとで学習を進めた。ちょうど2004年に上谷香陽氏（立教大学）が『ドロシー・スミスの「フェミニスト社会学」－性別の捉え方・論じ方の形式をめぐる－』という、（おそらくはわが国で初めてのドロシー・スミスに関する）博士論文を執筆なさっていたので、授業開始前に上谷氏のご厚意でそのコピー版を送ってもらい、配布し、毎週1章ずつ輪読する形式で演習風に授業を行っていった。学位論文を大学院の授業で扱うことに関しては、3つの大きな教育上のメリットがあると榎田は考えている。第一に、最新の学術的成果を学べること（出版されているものは、論文で1～2年、書籍で5～6年遅れていると思う）、第二に、出版事情の悪く（本が薄くなりがちな傾向のもと）、索引や文献表の充実した学術的にしっかりした論文の様式をその必要性ごと学べること、第三に、本物の学位論文を読むことで、良い点も悪い点も両方含

めて「論文というものの書き方・読み方」を、学生を強く動機付けながら、検討していくことができること（これは身につく！）、この3点である。じっさい、学位論文を用いた授業の効果は高く、院生達は、誰もがよく学習し、執筆技術を身につけ、思考を深めていった。今年の大学院の授業ではこのほかに印刷されたテキストとして平 英美・中河 伸俊編『新版 構築主義の社会学』（世界思想社）を取り上げ、その中の一部の論文を輪読した。また、実技部門では、学部の地域調査実習の授業と連動させる形で、インタビュー方法講習（実習を含む）およびビデオ撮影講習を行った。これらの成果を総括する学期末イベントとして、「上谷博士と語る会」を2005年7月12日に開催し、親しく博士のお話を伺った。また、夏休みの課題として自由題レポートを課し、その成果をこの報告書に掲載することとした。なお、大学院生（修士2年）の佐竹文子氏のレポートは、提出後、上野加代子氏と榎田によって補筆・改訂され、『徳島大学 社会科学研究』20号（2007年2月発行）に掲載されている。この論文は、印刷版発行と同時に、下記のHPサイトでそのPDFファイルも公開されているため、本冊には搭載しなかった。墨字版の抜刷は、希望者全員に送付できるだけの冊数を榎田が確保しているので、ご入り用の方は、榎田（[kashida@ias.tokushima-u.ac.jp](mailto:kashida@ias.tokushima-u.ac.jp)）まで「氏名、送付先住所、希望抜刷冊数」を明記の上、お申し出頂きたい。おおむね1週間以内には、発送したいと思っている。（佐竹・上野・榎田2007「児童虐待事例のつくられかたーD.スミス「Kは精神病だ」の分析方法を基軸としてー」はPDFファイルの形で、徳島大学総合科学部管理の以下のWWWサイトアドレスにすでに掲載されている「<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/bulletin/pdf/socj20-2.pdf>」）。

また、本報告書には付録としてDVDがついている（PC専用のデータDVD。音楽用電機製品には対応していませんのでご注意ください）。この中には、1998年3月の『エスノメソドロロジーとその周辺』から、2006年の「鍼灸インタビュー」まで、ほぼ10年分の社会学研究室の研究成果がPDFファイルの形で入っている（透明テキスト貼り付けファイルになっているため「adobe acrobat」等でキーワード検索が可能）。これらは榎田が徳島大学で社会学の教員になってからつくってきた『実習報告書』・『ゼミ論集』のすべてを電子ファイル化したものであり、その一部をHP（<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/>）で公開してきたものである。こちらは、墨字版の残部がもはやほとんど存在しないため、電子的に印字してご活用いただければ幸いである。

以下、慣例に従い、謝辞を述べる。

調査に応じて下さった多数の方々（実習関係では、恒石真、篠原新作、大崎一葉、上別府芳子の各氏および森ノ宮医療学園専門学校の関係者の方々、大学院授業関係では、匿名性保持のためお名前を記すことができないが、インタビューに応じて下さった多くの関係者の方々）の御協力があって、今年も『地域調査実習』および『社会組織論』の授業運営をなんとか進めることができた。厚く御礼申し上げます。また、報告書のまとめおよび論文作成にあたっては、上述の上谷氏だけでなく、国際基督教大学の岡田光弘氏からも助力を賜った。氏には、年末の忙しいときに（2006年12月3日）徳島まで来てもらい、ビデオを見ながらの長時間にわたるデータセッションに、最初から最後までおつきあい頂いた。セッション後の鍋が懐かしい。ご芳情に感謝したい。また、2006年4月から、研究室の業務を一手に取り仕切ってくれている志村裕子氏への謝辞も怠ることはできない。諸事情から今年は研究室をあけての出張が多かったが、彼女のパンクチュアルさに大いに助けられた。本報告書がなんとか年度内に発行ができた背景には、彼女の貢献がある。続けてお世話になり続けたいと思っている。

なお、本報告書掲載の調査および研究の一部は、文部科学省科学研究費補助金「医学教育のエスノメソドロロジー」および「高等教育改革のコミュニケーション分析」ほかによって可能になったものである。諸機関からの人的・財政的サポートに感謝する。